

子どもを暴力から守ろう

被災遺児家庭
支援者研修

言葉掛けなど学ぶ

釜石

沿岸広域振興局の被災遺児家庭支援者育成研修は18日、釜石市新町の釜石地区合同庁舎で開かれた。関係者約30人が、子どもたちを暴力から守るための支援の在り方などを学んだ。

子ども自身があらゆる暴力から心と体を守る教育プログラム「CAP」の普及活動などを行うCAP岩手の高橋寿美子代表ら3人が講師を務めた。

高橋代表は、いじめ

や暴力を受けた人の共感が悪いと思う傾向がある心理として、自分ごと説明。「あなたは



大切な人なんだよ」と伝え、日ごろから自尊心や自己肯定感を高めることが大切」と述べた。

その上で、子どもが相談してきた時には、周囲の大人が▽話してくれてありがとう▽あなたを信じるよ▽あなたが悪いのではないーという言葉を掛けることが子どもの安心につながる」と助言した。

同研修は全4回で、同日は2回目。日本ユニセフ協会などの協力で実施している。

子どもに対する言葉掛けなどを実践練習する参加者